

Pass me!

県民とつくる
鳥取県立美術館ができるまでを伝える現状報告マガジン

08



美術館の建設も
順調に進行中!

美術館にまつわる説明会やレクチャーを、県内各地で展開しています!

県博 NEWS & TOPICS

01 センス・オブ・サイズ ~「大きさ」という視点からアートを読み解くと



誰もがもつ、「大きさの感覚」。アートの文脈で言えば、画面の寸法やその内側で表現される特徴を表す際などに用いられます。本展では、当館の所蔵品を中心にさまざまな作品を「サイズ」の観点で読み解きながら紹介し、作品がもつ魅力や価値、個性に光を当てていきます。

会期 2023年4月15日(土) - 5月14日(日)
※月曜休館(5月1日を除く)

会場 鳥取県立博物館 第1.2特別展示室

時間 9:00 - 17:00 (入館は16:30まで)

料金 一般180円(70歳以上・大学生以下・学校教育活動での引率者・障がいのある方・難病患者の方・要介護者およびその介護者の方・企画展チケットをお持ちの方は無料)

◀ 辻晋堂《雨の日(老人)》
1942年 / 木彫・着色 / 16.5×9.5×12.0cm / 当館蔵

02 移動美術館 日南展 “みる”からはじまる「対話型鑑賞」のススメ



▲ 日南町美術館の外観

対話型鑑賞のファシリテーターを募集中! お問い合わせは当館美術振興課まで→0857-26-8045

鳥取県立美術館の
ロゴ・シンボルマークが決定しました!

応募総数1,726点のなかから、一次審査、一般投票、最終審査を経て、採用案がついに決定しました! 2023年3月21日の授賞式で発表後、プレサイトでも公開します。お楽しみに!

今号の運び人 passer

舞台は ここあん(子己庵) 〒684-0033 鳥取県境港市上道町565



境港市にある
小さな子どもが憩う場所
「ここあん(子己庵)」

庵主
渡部万里子さん

米子市生まれ境港市在住。
「米子子ども劇場」の運営に
関わったことをきっかけに、
地域の子どもの寄り添う活
動を続ける。NPO法人子ども
未来ネットワーク理事長。
https://cocoan.jp/

開館に向けて
鳥取各地を
白い箱が旅します
HERE!



Q アートの魅力って、 どんなところ?

A ●私が関わるNPO法人では、0歳~未就学
児にお芝居や音楽の舞台を届け、アートと
の出会いの場をつくる活動「アートスター
ト」を行っています。まだ物語を理解できない小さな
子でも、舞台が発する気配は感じ取ることができる。
アンコールでは「ありがとう」という表情で舞台を見つ
めていることもあるんですよ。世代を超えて届くアート
の力にいつも感動するし、魅力を感じますね。

Q 鳥取県立美術館と やってみたいことは?

A ●「アートスタート」では、ライブペインティ
ングなど絵画を扱う演目もありますし、「ここ
あん」で大切にしている木のおもちゃは、
創作の入り口にもなり得ます。子どもがアートに触れ
られる機会をつくるため、美術館と協力して活動ができ
たら嬉しいですね。

「ここあん」の渡部さんへのロングインタビュー
はWebメディア「totto」にて公開中!



Passer's Recommend

1 | Cafeマルマスのコーヒー
近所「Cafeマルマス」の
コーヒーはほっとする至福の
一杯。大正時代の蔵を改修
した建物も素敵です。

2 | キャンدلナイトin境港
海とくらしの史料館で毎年
夏至に開催。キャンドルの
灯りのもとトークやコンサ
ートが楽しめます。

3 | 上道神社
あがりみち
大王松の大きな松ぼっくり
や無患子の実がたくさん落
ちていて、子どもとのお散歩
に最適です。

「とつとりの未来をつくる」
美術館が生まれます!



倉吉・美術館建設地の近くにオープンした HATSUGAスタジオ ってどんなところ?

Q 「HATSUGAスタジオ」って何ですか?

A 鳥取県立美術館は作品の保存、展示だけではなく、人間の創造性
に働きかける活動の場としても機能することを目指しています。
HATSUGAスタジオはそのための準備室のようなもの。レクチャーやワーク
ショップはもちろん、そこに集まった人たちと意見やアイデアを交換したり、
プロジェクトを立ち上げたりと、実験的な試みを行いながら、**「アート**
の普及活動とアートを通じた新しいコミュニティづくりに取り
組めます。また、アーティストやクリエイター、文化・地域団体との連携事業
や、ボランティアなどの県民参画プログラムも試行し、その活動やネットワー
クを美術館へとつなげていきたいと考えています。

Q なぜ「HATSUGA」なの?

A 当館では、県民のみならずと連携して美術館づくりを行っていく
「アートの種まきプロジェクト」を2018年からはじめ、県内各所でアート
に携わる方々との対談やワークショップの開催、広報誌の制作・配布などを
通じて、アートファンの拡大や機運醸成を試みています。美術館の開館を2年
後に控えたいま、HATSUGAスタジオは、**「これまで持ってきたアートの
種を「発芽」させたい!」**との期待を込めて名づけました。芽がぐんぐん
成長していくイメージを、とんとん立ち上がりていく美術館の姿にも重ね
ながら、さらなる展開を計画しています。



学芸員
赤井あずみ



専門員
山本亮

Q どのような活動が生まれるの?

A たとえば、アートはよくわからないけれど興味がある方や、美術
館がどんなところなのか知りたい方を対象とした**「入門編の
プログラム」**。アートの視点を取り入れてクリエイティブな活動をして
みたい方には、**「参加型のプロジェクト」**。人とつながったり、知見を
広げたりしたい方のための**「ラーニング・プログラム」**など、さまざま
なアプローチでアートに親しみ、楽しむ活動を実施していきます!

こんな取り組みを行いました!

※2023年1時点

淀川テクニックさん
によるトークイベント

県内の魅力を再発見する
リサーチ・プロジェクト

木のおもちゃに触れられる
幼児向けのプログラム

幅広い年齢を対象に
プログラムを準備中!

HISTORY OF MUSEUM

2022 (R4)

9/13

美術館にまつわる
レクチャー&トークを
県内各地で開催

美術館開館を2年半後に控え、美術館の建築や運営、作品の収集方針や新しく購入したウォールホール作品について改めて説明するイベントを企画。倉吉市をはじめ、県内各所で開催し、レクチャーや参加者との意見交換を行いました。



11月3日に行われた米子市での様子



南部会場で説明する
梅田美術館整備局長

9/30

『Pass me!』7号目発行!



とっとり県美術奨励のみなさんに
発送作業をお手伝いいただきました!



10/29

鳥取県立博物館50周年記念企画展
「すべて見せます! 収蔵庫の資料たち」開幕

1972年10月に開館し、今年で50周年を迎えることを記念して、自然・人文・美術の3分野、約20万点におよぶコレクションの全容を紹介する企画展を開催しました。会期中の土日には、展示室に各分野の学芸員、専門員が常駐し、来館者とさまざまな対話を繰り返しました。



美術分野の展示では約180点を展示

11/6・13

ファシリテーターの実践演習を開始!

開館後、県内の小学4年生を全員美術館へ招待することを計画しています。その準備として、希望した県内8校473名の子どもたちをバスで企画展へ招待しました。併せて、ファシリテーター登録者による展示案内や対話型鑑賞も実施。開館後にに向けたシミュレーションの機会にもなりました。



収蔵作品の國領経郎《抱擁》を前に対話型鑑賞のリハーサルをする様子

参加者



東口祥子さん(ファシリテーター登録者)
みんなで考えを持ち寄り、その場にしかない作品の解釈を生み出す楽しさに、対話型鑑賞の魅力を感じています。対話のなかで作品の見え方が変化し驚きが生まれる体験は、個人鑑賞ではなかなか味わえません。そのお手伝いのできることに嬉しです。

ゲスト



松本篤さん(NPO法人remoメンバー/AHA!世話人)
市井の人々の「記録」と「記憶」に着目したアーカイブ・プロジェクトを、開館にむけて展開したいと思っています。今はいろいろな可能性を探っているところです! お楽しみに。

2022.01

仮囲いの設置やラグビーのゴールポストの撤去など、準備工事がスタート。



2022.02

積雪が続いた2月。雪かきの末無事に起工式を終え、掘削工事へ進みます。



2022.03

仮設事務所を設置。地盤の改良を行い、建物を支える杭工事に着手しました。



2022.04

完成形を見える化し、金物の位置や足場の配置が確認できるVRを導入。



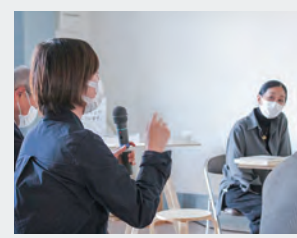
11/24

鳥取短期大学の学生による対話型鑑賞のファシリテーションを実施

小学生の来館受け入れ体制を整えていくため、対話型鑑賞によるコミュニケーション力の向上に注目する鳥取短期大学との連携を継続中です! ファシリテーションによって身につく力に注目する同学では、授業の一環として、小学生に対して対話型鑑賞を実施。春からの事前学習や直前練習の成果を大いに発揮しました。



講演中の様子



会場からはプロジェクトへのアイデアも飛び出した

山本理功さん

(鳥取短期大学 国際文化交流学科1年)

はじめは、うまくファシリテーションできなかったら……と緊張していましたが、子どもたちの積極的な発言にほっと安心。一緒に楽しむことができました。自分が思いつかないような、面白い作品の見方も飛び出し、鑑賞の幅を広げる良い機会になりました。

受講生



終了後、当館内で振り返りを実施

Collection Recommend

春を楽しみたい 人に
おすすめの名作
すかたのこしんしんぼん
菅福彦《春宵宣行》
1927年/絹本墨画淡彩 一軸 52.0×71.0cm



専門員
外村文選

奥行きのある画面のなかに、影絵のように浮かび上がる臘月夜の情景。はじめて本作を鑑賞したとき、まるでこの時代、風景のなかに自分も立っているかのように思えました。穏やかな春の夜風に包まれたまちを歩き交う人々の足音や会話まで、想像を掻き立てられませんか。



解説

鳥取市に生まれた菅福彦(1878-1963)は、生後まもなく大阪に移住。大正の終わり頃からは、近代化で失われつつあった大阪の風俗を惜しみ、「浪速風俗画」を手がけました。福彦の優れた表現技法のひとつである墨の濃淡のみで描かれた本作では、人情味溢れる人々の暮らしが、柔らかな筆致で趣深く表現されています。1929年には本作と同じ題名の作品がフランス政府買い上げとなりました。

新たな拠点も活用しながら、美術館開館までの
運営体制づくりやコミュニティづくりを
進めていきます!

12/3

「HATSUGAスタジオ」
オープニングイベント第2弾に、
淀川テクニクさんが出演

県内在住のアーティスト・淀川テクニクこと柴田英昭さんをゲストに迎え、トークイベントを開催。会場内に設置された作品を前に、モチーフの選び方や廃棄物を素材に作品をつくるおもしろさなど、制作秘話も交え語っていただきました。



《とっとりプラホウドリ》(手前)と会場の様子

ゲスト



柴田英昭さん(アーティスト)
トーク終了後に参加者の方々とお話しさせていただき、ホントに面白い方が鳥取に集まっているなと感じました! そんな方々と一緒に、鳥取県立美術館をハブにして、世界を一新するような情報と文化を発信していけたらと思っています。

11/27

美術館盛り上げ部会による
「空からみる未来の美術館」
を開催

県中部の青年経済3団体によって、気球に乗って工事中の美術館を眺める企画が行われました。工事現場では重機の乗車体験のほか、模型やVR・ARを使った建築の紹介なども実施。日々活気を帯びる建築現場の雰囲気や美術館のスケールを感じる機会となりました。



気球は美術館と同じ高さ
(20m)まで昇降しました



2022年3月から本着工した鳥取県立美術館。建物が少しずつ出来上がっていく様子を、さまざまな角度から観測してみました。

美術分野の展示では約180点を展示